

副詞「うっかり」と「わざと」

——受動文における副詞の機能に
関する一考察

牟田綾

◆要旨

「うっかり」と「わざと」は、ともに意図性に関わる副詞である。本稿では、これらの副詞の受動文における機能について取り上げる。たとえば、「僕は彼にわざと足を踏まれた」という文では、「わざと」は「僕」という主体と、「彼」という能動動作主のどちらの様態を表すのか、というのが本研究の中核的な問いである。そこで、コーパスを用いて使用実態を調査した結果、先行研究と異なり、主体ではなく能動動作主の様態を表す場合があることがわかった。さらにこれらの用例を考察し、名詞および動詞の語彙的意味、文・文脈に含意される意味などから、これらの副詞が能動動作主の様態を表す機能を持つための条件についても提示した。

◆キーワード

意図性を表す副詞、副詞とヴォイスの相関、うっかり、わざと、主体めあての副詞

◆ABSTRACT

“U^UKKARI” (carelessly) and “WAZATO” (deliberately, purposely) are adverbs which express intentionality. While several studies have reported that these adverbs describe the state of the patient in passive sentences, there has been no empirical study found to prove such functions of the adverbs. Therefore, the objective of this study is to clarify which one the adverbs modify, the agent or the patient, in passive sentences. In contrary to the preceding studies, the research result suggests that UKKARI and WAZATO describe not only the status of the patient, but in some cases they refer to the agent. Using semantic analysis, this paper examines how restricted linguistic conditions allow the adverbs to modify the agent.

◆KEY WORDS

adverb expressing intentionality, relationship between adverb and passive, *ukkari, wazato*, adverb modifying agent noun

Japanese Adverbs
“UKKARI” “WAZATO”
Analysis of functions of adverbs
in passive sentences
AYA MUTA

1 はじめに

仁田 (1991: 39-40) は、「うかつにも」や「わざと」のような「ヴォイスの層」で働く「主体めあての副詞」は、受動文でも「主体の動きの被り方を表す」と述べた (以下、例文中の下線は引用者による)。

- (1) a. 広志ハ僕ヲウカツニモ突イタ。
b. 僕ハ広志ニウカツニモ突カレタ。
- (2) a. 警官ハデモ隊ノ一人ニワザト殴リツケタ。
b. デモ隊ノ一人ガ警官ニワザト殴リツケラレタ。

しかし実際には、「わざと」が文の主体 (以下、主体) ではなく、もとの能動文の主体、すなわちもとの能動文のガ格名詞句 (以下、能動動作主) の様態を表すと考えられる文を目にすることがある。

- (3) 今日、難波を歩いていたら知らない女性 (60代くらい) にわざとぶつか
られました。 (OKWave 2008 質問No.4303895)

本稿は副詞「うっかり」^[註1]と「わざと」が受動文において主体と能動動作主のどちらの様態を表すかについて実態的調査を行い、その受動文における性質を意味的観点から考察し、機能の明確化を試みるものである。

2 先行研究

副詞 (的成分) 研究において「うっかり」または「わざと」に言及したものには、「わざと」が受動文でも主体を修飾するとして北原 (1975) をはじめ、中右 (1980)、浅野 (1982)、小矢野 (1982)、国立国語研究所 (1991)、仁田 (1991)、森本 (1994)、高木 (1997)、酒井 (1998)、仁田 (2002)、李 (2003)、佐々木 (2003, 2008) 等がある。しかし受動文における機能に関する考察は、北原以外には上

述の仁田 (1991, 2002)、小矢野 (1982) と少なく^[註2]、またいずれも「受動文においても主体を修飾する」という前提の論であり、実質的検証がなされたものは管見の限り見当たらない。そこで、本研究ではその使用実態を明らかにすべく、以下の調査を行った。

3 調査と考察

3.1 調査概要と用例数

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』より、「うっかり」^[註3]と「わざと」が受動文で使用されている用例を採集し、主体と能動動作主のどちらの様態を表すかについて考察した (検索ツールとして『中納言』を使用)。

BCCWJにより採集した用例数の内訳は、以下の通りであった。

表1 受動文における副詞「うっかり」と「わざと」用例数

| 副詞 | 主体 | 主体の様態を表す | | 能動動作主の様態を表す | | 計 |
|------|----|------------|------------|-------------|-----|---|
| | | 有情物 | 無情物 | 有情物 | 無情物 | |
| うっかり | | 12 (85.7%) | 0 | 2 (14.3%) | 14 | |
| わざと | | 8 (32.0%) | 11 (44.0%) | 6 (24.0%) | 25 | |

「うっかり」が能動動作主の様態を表している用例は2例 (14.3%) しか見当たらなかった。一方で、「わざと」が能動動作主の様態を表している用例は17例あり、無情物が主体のものをのぞいても6例 (24.0%) あった点が注目される。

3.2 受動文における「うっかり」の意味・機能

3.2.1 「うっかり」が主体の様態を表すもの

主体の〈注意力の不足〉 (浅野1982: 276) が原因で、主体が能動動作主から被害を被る事態の受動文では、「うっかり」は主体の様態を表す。

- (4) 「なつきの死体は、(略) 腐乱していたため、私ども警察関係や彼女の

両親もうっかりだまされた」 (小林久三『心霊写真殺人事件』1997)

- (5) ところが、五歳になったその子供に、白狐はうっかり狐の本性を見られてしまう。 (小松左京・高橋桐矢『安倍晴明』2002)

3.2.2 「うっかり」が能動動作主の様態を表すもの

一方で「うっかり」が能動動作主の様態を表していた2例は、主体が被害を被る原因が、能動動作主の〈注意力の不足〉にあるという点が異なっている。

- (6) (略) お釣りをうっかり間違えられたりすると、(略) そのお客様は二度と店に来なくなってしまうのです。

(木暮衣里『モテモテ販売員の接客術』2003)

- (7) この引っ越し費用を安くあげるために(略) 友達(善意でたくさん駆けつけてくれたりする)にお礼を包んだり(略)。うっかり家具を壊されたり、(略)。(『事典・お金のかけどころ削りどころ家計リストラ術』1999)

「うっかり」が主体と能動動作主のどちらの様態を表すかは、原因がどちらの〈注意力の不足〉なのかにより決まるが、それは事態(主体にとっては「おつりを間違えられる」/能動動作主にとっては「おつりを間違える」)が起きないよう、どちらが「注意すべきか」という想定が前提となる。(6)や(7)の事態は一般に主体が注意すべきであるとは想定されず、むしろ能動動作主のほうが注意すべきだと想定される。そのため(6)や(7)は〈注意力の不足〉という語彙の意味を主体が担えず、「うっかり」は能動動作主の様態を表すこととなる。つまり文・文脈の意味が表す事態が起きないよう能動動作主のほうが「注意すべき」であると想定される場合は「うっかり」が能動動作主の様態を表す。しかしこのような用例は2例のみであるため、さらなる調査が必要であろう。

3.3 受動文における「わざと」の意味・機能

3.3.1 「わざと」が主体の様態を表すもの

- (8) 「(略) 彼は、君がわざと病院にかつぎ込まれ、タダメシにありついて、

治療費も払わずに逃げ去ったことに気づいて、啞然啞然としてたよ」

(『ラストコンサート』ルイジ・コッツィほか脚本 清水節編著2004)

「わざと」の意味の中核は〈隠された目的〉〈通常とは異なった行動〉〈意図的に起こす〉(飛田・浅田1994:593)であると考えられ、(8)のように主体がその語彙の意味を満たせば、「わざと」は主体の様態を表す。

3.3.2 「わざと」が能動動作主の様態を表すもの

しかし、以下の条件下では「わざと」が能動動作主の様態を表す機能を持つ。

条件① 主体が無情物である

意図性を持たない無情物が主体の場合、当然ながら「わざと」は能動動作主の様態を表す。

- (9) 青酸化合物が混入した酒の入った水筒がわざと残されていたりして、(略) 作為が感じられます。(渡辺房男『インサイダー』2004)

条件② 意図的に行うことが不可能な受動動作である

受動動作には、語彙の意味として意図的に行えないものがある。

- (10) 「おたくの猫？」とか、わざと言われます。(Yahoo!知恵袋2005)
(11) 「不愉快なことをわざと言われ、(略) もう付き合いをやめる〜ごめんね！」と連絡が来て(略) 対応に困っています。(Yahoo!知恵袋2005)
(12) 何かしらイジメられてた…。(略) わざとその場では誉められてちょっとその場を離れたらすっごい笑いやにしたり、(略) 平和なんてなかったんだ。(Yahoo!ブログ2008)

自分が望む言葉を相手から引き出すことは困難であり、「言われる」や「ほめられる」という受動動作は、主体が意図的には行えない。このような動詞では主体が〈意図的に起こす〉という意味が担えず、「わざと」は能動動作主の様態を表す。

条件③ 主体の〈隠された目的〉が含意されていない

(13) (略) 石投げられたり、わざと転ばされたり、(略) なんて自分はイジメられるのか不思議だった。
(Yahoo! ブログ2008)

(14) ぼくらが国家試験を受けたとき、ぼくらはインターン闘争という闘いの日々で「騒いでいる人間は厚生省ににらまれているからわざと落とされるんじゃないか」といった噂もあり、ちょっとビビってはいた。
(山田真『子どもと病氣』1991)

主体の〈隠された目的〉が含意されていない文・文脈では、「わざと」は能動動作主の様態を表す (cf. あのサッカー選手はゴール前でわざと転ばされるのが上手い)。また、能動動作主の〈隠された目的〉が含意されていることで、主体にそれがないことが明確化すると考えられる。(13) は「いじめ」、(14) は「闘争運動に参加した学生を排除する」という能動動作主の〈隠された目的〉が読み取れることで、主体に〈隠された目的〉がないことが明確化される^[注4]。

以上3つの条件を見たが、この三者の関係は次の通りである。条件③は「わざと」が主体と能動動作主のいずれの様態とも解釈可能な場合を区別する基準である。しかし文脈という基準はときに曖昧性を持つため、まず名詞の語彙的意味(無情物か有情物か)による条件①、次に動詞の語彙的意味(主体の意図で成立可能か)による条件②が優先され、該当しなければ条件③で判断される。

表2 「わざと」の修飾対象を決定する条件①～③の相関

| 「わざと」が表す様態 条件の判定材料 | 主体 | 能動動作主 | |
|-----------------------|-----------|---------|------|
| 主体 | 有情物 | | ①無情物 |
| 受動動作 | 主体の意図で成立可 | ②成立不可 | |
| 主体の隠された目的 | 含意される | ③含意されない | |

- ①の例 → 現場に水筒がわざと残されていた。
- ②の例 → 不愉快なことをわざと言われた。
- ③の例 → いじめっ子にわざと転ばされた。

4 おわりに

以上、副詞「うっかり」と「わざと」が受動文において主体の様態のみならず能動動作主の様態を表すことを考察し、名詞の語彙的意味および動詞の語彙的意味、文・文脈に含意される意味などからその条件を提示した。今後は、その他の意図性に関わる副詞についても同様のことがいえるのか、さらに話し言葉に近い用例 (あるいは話し言葉そのもの) についても調査していきたい。

〈学習院大学学部生〉

注

- [注1] …… 本研究では使用頻度を鑑み「うかつにも」ではなく「うっかり」を研究対象とした。「うっかり」は〈迂闊〉よりもややくだけた言い方『表現類語辞典(第六版)』(1994: 123)とされる。意味が完全に等しいとはいえないが、重なるところは多い。
- [注2] …… 森本(1994: 105)は、日本語の副詞は「意味的な行為者ではなく、表層の文法的主体を指す」方が「一般化として適切」だが「副詞の意味によっては制限がより厳しくなって、表層主語である行為者だけが許容される」可能性を示唆している。
- [注3] …… 「うっかりと」の形式は同条件下で0件であった。
- [注4] …… 用例(3)のように、主体と能動動作主のどちらの〈隠された目的〉も表示されない用例は条件③「主体の隠された目的が含意されない」に当てはまり、能動動作主の様態を表すと判断される。さらに、能動動作主に何らかの〈隠された目的〉があると読み込まれることになる。

参考文献

浅野百合子(1982)「浅野類義考辞典」国広哲弥・柴田武・長嶋善郎・山田進・浅野百合子『ことばの意味3 辞書に書いてないこと』pp.276-277. 平凡社
 李澤熊(2003)「主体の意図にかかわる副詞(的機能を持つ表現)」の意味研究」博士論文、名古屋大学
 北原保雄(1975)「修飾成分の種類」『国語学』103, pp.18-34. 国語学会
 国立国語研究所(1991)『副詞の意味と用法』大蔵省印刷局
 小矢野哲夫(1982)「副詞の意味記述について—方法と実際」『日本語・日本文化』11, pp.39-63. 大阪外国語大学研究留学生別科

- 酒井悠美 (1998) 「無自覚の行為であることをあらわす副詞」『国文学解釈と鑑賞』63, pp.94-103. 至文堂
- 佐々木文彦 (2003) 「「わざと」の意味・用法について」『明海日本語』8, pp.127-135. 明海大学日本語学会
- 佐々木文彦 (2008) 「主体の意図に関わる副詞の意味・用法について」『応用言語学研究』10, pp.127-134. 明海大学大学院応用言語学研究所
- 高木一彦 (1997) 「副詞と陳述詞—その意味構造について」『大東文化大学紀要』35, pp.125-143. 大東文化大学
- 中右実 (1980) 「文副詞の比較」国広哲弥 (編) 『日英語比較講座 第2巻 文法』 pp.157-219. 大修館書店
- 仁田義雄 (編) (1991) 『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版
- 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』東京堂出版
- 藤原与一・磯貝英夫・室山敏昭 (編) (1994) 『表現類語辞典』(第六版) 東京堂出版
- 森本順子 (1994) 『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版